

通信小海

チェルノブイリは

他人事か？

牧師 水草修治



一九八六年四月二十六日未明、旧ソ連ウクライナのチェルノブイリ原発が停止・試験運転中に炉心溶解、爆発事故を起こした。結果、事故時の運転員と消防士たち千人、事故処理作業員六十万から百万人、事故直後避難住民十三万五千人、後の調査で高汚染地帯と判明した地域住民四百万人（うち強制移住者二十六万五千人）で、被災者は合計五百万人に上る。死者数は、政府発表で九千人にのぼり、他に数十万人という報告さえある。

チェルノブイリ周辺の放射能汚染面積は、十四・五万平方キロにおよび、これは日本の

今月の御言葉

「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」マルコ福音書十二章三十一節

本州（二十一・七万平方キロ）の六十四パーセントに相当する。今も、高汚染地域で生活する人々は三百七十三万五千人。

その後、母乳の放射能汚染、避難した子どもたちの甲状腺ガンの激増、子どもたちの染色体異常、放射能による牧草汚染などが被災三か国から報告されている。チェルノブイリ事故はまだ終わっていない。放射能の環境への影響はなお三百年は続くというのがロシア政府の発表である。

日本には現在、原発が五十三基あるが、政府公式見解では、日本の原発は絶対安全だということだそう。しかし東海村JCOで臨界事故、昨年二月福井県美浜原発事故、もんじゅ火災事故、東海再処理爆発事故、福島再循環ポンプ事故など数々の事故と被災者を思い返せば、「絶対安全」などということはない。なんとむなしなことか。

最も懸念されるのは、原発震災である。

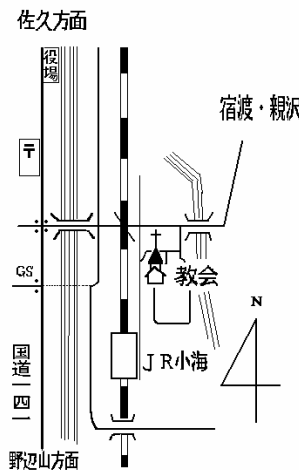
日本同盟基督教団小海キリスト教会 牧師 水草修治

会堂・牧師館 南佐久郡小海町大字小海四三五五 二七

〒三八四一一二 二六七九二四七七六

カンパ宛先 振替 005300 61683

見晴台の教会へどうぞ



集会あんない

日曜日 サンデースクール 午前八時四五分

朝礼拝 午前十時から十一時半

夕礼拝 午後八時から九時

水曜日 祈り会 午前十時半と午後七時半

*海尻・川上で毎月家庭集会あり。

*個人的な聖書勉強や個人的なご相談にも乗ります。

昨年、宮城県女川原発は、想定外の地震動で停止したが、あれは予兆にすぎない。政府地震調査委員会によれば、宮城県沖地震(M七・五前後)が今後三 年以内に発生する可能性はなんと九十九%である。

同委員会の今後の巨大地震予報によると、東海地震(M八程度)が三 年以内に発生する確率は八四%、東南海(M八・一前後)と南海地震(M八・四前後)が三 年以内に発生する確率は五 〇%、南関東直下でM六・七〇七・二の地震が三 年以内に発生する確率七 〇%、十年以内に発生する確率三 〇%である。しかも、日本の原発が想定してきた地震は、直下型で最大M六・五でしかないという。

チェルノブイリとは「苦よもぎ」を意味するが、黙示録に次のようにある。「たいまつのように燃えている大きな星が天から落ちてきて、川々の水源に落ちた。この星の名は苦よもぎと呼ばれ、川の水の三分の一が苦くなったので、その水のために多くの人が死んだ。」チェルノブイリは決して他人事ではない。

現状のまま推移すれば、近い将来、大

災害の後、日本人はこの島国の片隅で、遺伝病と放射能におびえながら過ごさねばならなくなるであろう。私たちは、脱原発社会を目指して今決断すべきではないだろうか。



福音指圧教室

畑が始まって、腰やひざにむりをかけていませんか。指圧でいたわりながら、よいスタートを切りましょう。

五月二十一日午後2時

持ち物:バスタオル、タオル、くつした

海尻井出博彦さんち

で家庭集会

第一、第三木曜夜七時半から九時、聖書を読む会をしています。ご一報くださってお越しください。 **96 2534**

南相木でも家庭集会

- * 第二木曜日、夜七時半から九時
- * 日向中島悦子さん宅です。
- * 家庭集会には牧師夫婦がかけ、近所の人と聖書を読んだり賛美歌を歌ったりします。



感謝!切手も十分満たさ

れました 野宿者支援

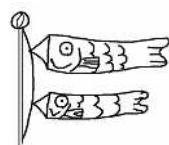
報告書「びびきの読者を募っています。誌代ならびに送料は無料です。はがきに氏名、送付先と部数を書いて芦谷の事務局に送ってください。 山谷農場事務局(藤田 寛)

小海町芦谷ヒルサイドコーポ一 二号室毎週金曜・土曜はあります。電話090・1436・6334 777042・786・2088

メール nyoro@beige.ocn.ne.jp
カンパ行振替 一四 四五三七九六

夢でも幻でも

なく



うれしすぎて信じられない。そんな経験したことがあるだろうか。十年間ひたすら片思いだと思いこんでいた相手から、求婚された！とか、そんなときには、うれしすぎて信じられず、ほっぺをつねつてみたりするかもしれない。

イエス様の弟子たちは、あの時、うれしすぎて信じられなかった。それは、西暦三十年ユダヤ暦ニサンの月のある週の初めの日の夕方のことである。

弟子たちは、その夕方、当惑のなかにいた。その日の早朝、マリヤとあと二人の女弟子が血相を変えて、弟子たちのいる部屋に飛び込んできて叫んだのだ。

「イエス様のお墓が空っぽでした。びつくりしていると、白い服を着た青年が言ったのです。『あなたがたは、なぜ生きている方を死人の中で探すのですか。こ

こにはおられません。よみがえられたのです。』と。

「なにを馬鹿なことを。」と弟子たちは女たちを相手にしなかった。「おまえたち夢でも見たんだろう。」と。けれども、マリヤたちは引き下がらない。

「いいえ。本当よ。この目で見たのよ。この耳で聞いたのよ。彼はこつも言ったわ。』ガリラヤにおられたころ、イエス様がお話になったことを思い出さない。イエス様は旧約聖書に預言されているとおり、人々の手にかかつて十字架にかけられて殺されるが、三日目によみがえらなければならぬとおっしゃったでしょう。』」

「そついえば」と弟子たちは互いの顔を見合わせていった。「たしかにイエス様は、そうおっしゃっていた。でも、まさか文字どおり死んだ人間がよみがえるなんて、おとぎ話じゃあるまいし……。」

議論しても仕方がない。行動派の弟子ペテロは、墓に向かつて駆け出し、ついでヨハネも駆け出した。彼らは帰ってくると「確かに墓は空っぽだった。墓の中には亡骸を巻いた長い帯状の亜麻布がわざわざほどかれ、

頭を巻いた布はすっぽりと抜けたように、巻かれたままになっていた」と報告した。

弟子たちは論じ合った。

「監視の目を避けて、なきがらを盗もうという奴がわざわざ時間をかけて亜麻布を取り頭の布を中身が抜けたようにしていねいに巻くなんてことをするわけがない。」

「じゃあ、おまえも女たちみたいに、イエス様が復活したとでもいうのか？」

と、議論をしている弟子のまっただなかにイエスが現れた。そして、「うらめしやー」ではなく、微笑んで「平安があなたがたにあるように。」と言われた。そして、弟子たちに手を見せられた。そこにはまぎれもなく、犬くぎで打たれ指が通るほどの穴があいている。また足を見せられた。くぎが通る大きな穴があいている。それでも、弟子たちはうれしすぎて信じられない。

イエスは言った。「なにか食べるものがありますか。」そこで弟子たちは夕食の焼き魚を差し出した。イエスは神妙な顔で魚をむしやむしやと食べる。じつと見つめる弟子たちはついに納得した。夢でも幻でもない。まぎれもない。イエス様は復活したのだ。

考える力・ことば



「え？なぜ？」と思わずつぶやいてしまった。和歌山で起きた高校生による老人殺害事件のニュースを聞いてである。動機はなにかと聞けば、学校でいやなことがあったから、むしゃくしゃして、なんの関係もないひとり暮らしの写真屋の老人を殺したという。やっぱり「え？なぜ？」と頭を抱えてしまう。

それにしても、ここ数年、「なぜ？」と首をかきげざるをえない少年犯罪が多い。「なぜ？」というのは、いくら「これが動機だ」と言われても、行動とその動機と言われる事柄の間に、筋道が欠落しているからである。そのおじいさんが日頃から、彼に意地悪をしていたというならば、無論殺人はよくないが、まあ理解できなくはない。しかし、彼がむしゃくしゃした原因

は学校での出来事であって、この老人とはなんの関係もない。なぜ殺すのだ。

この手の衝動的行動は、殺人という極端なカタチではないにせよ、近年の若い世代の特徴である。その根本原因の一つは、少年たちの考える力の欠けである。考える力の欠けというのは、言い換えると、ことばを筋道を立てて用いる力、論理力の欠如ということである。

なにかというと、「ムカツク！」と叫び、「ウザイ！」と怒鳴る。この種のことばは、あかちゃんがおギヤアと泣きわめき、犬がワンワン吠えるのと同じ感情音である。ムカツク・ウザイという言葉を使うなどは言わないが、いやな気分になったらムカツクとウザイという感情音を発することしかしないで生活していると、せつかく人間として生まれながら、一生、感性が成長しない。ああもつたいない。こんなことを言っていると、それこそ、「ウザイ！」の一言でかたづけられて、ぼこぼこにされるのが落ちかもしれぬ。神は人間にことばという贈り物を与えてくださった。感情によって考えること

はできない。私たちが考えるのは、ことばによるのである。「オギヤア」「ウザイ」「ワンワン」「ムカツク」と感情音を発しつつけても、今なにをすべきかについて正しい結論に達することはできないが、ことばを筋道立てて用いるときに、正しい結論に達することができる。ことばを筋道立てて用いるには、身につけるならば、勉強ができるようになるばかりでなく、自分の人生を正しい航路へと導くこともできよう。

そのために一番効果的なのは、文章を書くことである。自分しか読まない日記ではなく、人に伝えるための文章を書くことである。そんなことを思いながら、私は毎週火曜日、作文教室を営んでいる。

「私たちはみな、多くの点で失敗をするものです。もし、ことばで失敗をしない人がいたら、その人は、からだ全体もりっぱに制御できる完全な人です。・・・船を見なさい。あのように大きな物が、強い風に押されているときでも、ごく小さなかじによって、かじを取る人の思いどおりの所へ持って行かれるのです。」ヤコブ書三章二、三節